



まつぼっくりひろば

子育てサロンに参加して

台風が過ぎ去った七月十九日、十九区公民館で第一回子育てサロン「まつぼっくりひろば」が開かれ、十四組の親子が参加しました。サロンの会長で民生委員・児童委員でいらつしやる安村先生の、経験豊かな講演を聴きつつ、ボランティアの方々の心遣いにより和やかな時間を過ごすことができました。

「まつぼっくりひろば」は民生委員が主体となり、老人クラブ、婦人会、地域の保育園などで構成され六月に開所し、参加者によって運営され、近所の方と楽しくおしゃべりしたり悩みごとを相談できるのが大きな特徴です。今までの子育て支援よりも地域に密着した新しい体制といえるでしょう。これで十九区にもおじいちゃん、おばあちゃん、母子と世代を超えた交流の場ができたのです。

現在、サロンがあるのは野嵩一区・真栄原・十九区の三地区のみで、社会福祉協議会が各地で推進中です。この紙面で興味を持たれた方は是非お近くの公民館又は社会福祉

協議会へお問い合わせ下さい。あなたが子育てサロンの担い手になるチャンスです。子育てを共感し協力しあう仲間が

できたり、かつて就いていた仕事や子育て経験を活かしたり、趣味・特技を發揮できる機会、だと思います。

今後「まつぼっくりひろば」

では季節の行事や講演などを予定しており、地域と連携した十九区らしいサロンづくりがなされていくでしょう。次回の「まつぼっくりひろば」は八月十六日（毎月第三水曜日 十時〜十二時）ちびっこ集まれ！

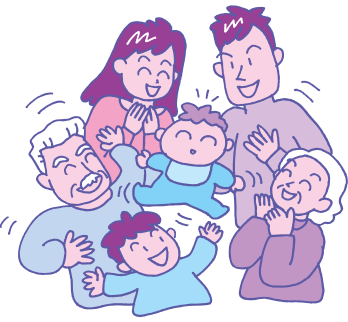
* 社会福祉協議会

（八九二一六五二五）

担当 地間さん 御領園さん

エプロン通信員

宮里 希見子



茶

くわいゆんだく

28



アイサー、シルク

旧暦七月の盆になると、県内各地ではアイサーが盛んに演じられます。今ではすっかり夏の風物詩の感があるアイサーですが、今を遡ること九〇年前、今ではちよつと考えられない出来事が起こりました。

一九一六（大正五）年八月二十一日付の『琉球新報』は、この年の字宜野湾のアイサーの様子を「白黒両党反目の間に競争的に西三日間演ぜられ候」と伝えています。本来ならば、字の人びとが一致協力するはずのアイサーですが、新聞が報じるところで、「シル（白）」と「クル（黒）」とに反目し、「競争的にアイサーが演じられていました。このように人びとを二分した対立は「シルクルの争い」と呼ばれ、村の習俗の存廃をめぐる党派的な争いが発端といわれています。「シルクルの争い」は、字宜野湾で特に激しかったといわれ、アイサーにとどまらず、綱引きも別々に実

施したり、「シル」と「クル」との間では結婚が許されなかったり、区長も両派から別々に立てられました。

「シルクルの争い」に、県もついに調停に乗り出し、一九三五昭和十一年になってやっと和解しました。もちろん、今では字が一丸となってアイサーに取り組んでいることはいまでもありません。



字宜野湾のアイサー 青年が一丸となって演じています。2000（平成12）年

「宜野湾市史への問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三三四四三一

ちゅらさん運動推進中!!

楽しい

夏休みにしゅら

8月に入り、夏休みもいよいよ中盤。子どもたちは、キャンプや夏祭りなど楽しく貴重な体験をしていることでしょう。しかし、開放感や不規則な生活から深夜はいいかいや飲酒・喫煙といった問題行動や暴走行為、薬物乱用などの非行に走りたり、出会い系サイトによる犯罪に巻き込まれる危険性が高まっています。

青少年の補導行為の約7割は深夜はいかいです。安易に夜間の外出を許していませんか。子どもたちにとって、夏休みが楽しい思い出になるよう、そして事件事故に巻き込まれないよう、家庭・学校・地域で見守りましょう。



宜野湾高校では、夏休み前の7月19日、宜野湾警察署による講話を実施しました。